

# 土木交通委員会説明資料

名古屋市営交通事業経営計画2023（案）について

平成30年12月6日

交 通 局

# 目 次

	頁
1 計画策定の趣旨 . . . . .	1
2 計画の位置づけ . . . . .	1
3 計画期間 . . . . .	1
4 計画の理念 . . . . .	1
5 主要課題 . . . . .	2
6 重点施策 . . . . .	4
7 施策を推進する事業 . . . . .	5
8 乗車人員の見通し . . . . .	8
9 計画目標 . . . . .	9
10 収支計画 . . . . .	10
11 進行管理 . . . . .	14
12 名古屋市交通事業経営有識者懇談会の開催 . . . . .	15
13 今後の予定 . . . . .	16

(注) 2019(平成31)年5月に改元が予定されていますが、わかりやすい表記とするため、2019(平成31)年度以降も「平成」を使用しています。

# 1 計画策定の趣旨

本計画は、少子化・高齢化のさらなる進行に伴う人口構造の変化、南海トラフを震源とする大規模地震などの自然災害、訪日外国人旅行者数の増加などの社会経済情勢の動向をふまえつつ、市バス・地下鉄において、今後想定される様々な課題に的確に対応しながら、より快適で便利な輸送サービスを提供していくために策定するものです。

# 2 計画の位置づけ

本計画は、現在策定中の名古屋市次期総合計画の個別計画であるとともに、「名古屋市営交通事業経営計画（2015－2018）」に引き続く計画として策定するものです。

また、総務省より、中長期的な経営の基本計画として策定が求められている「経営戦略」としての位置づけを併せ持つ計画です。

# 3 計画期間

2019（平成31）年度から2023（平成35）年度までの5年間

長期的展望にたった収支計画は、2019（平成31）年度から2028（平成40）年度までの10年間とします。

# 4 計画の理念

「新たなステージへ」

私たち名古屋市交通局は、安全最優先のもと、快適さ、便利さを積極的に高めることにより、誰もが安心して利用できる市バス・地下鉄を目指します。

## 5 主要課題

主要課題	内容
(1) 安全の確保	安全運行を確保し、安心してご利用いただけるよう、職員教育や安全設備の充実が必要
(2) 自然災害への備え	自然災害による被害を最小限に抑えるとともに、早期復旧ができるよう災害対策の計画的な推進が必要
(3) 計画的な維持管理	運行に支障を生じさせないように、引き続き、補修・更新費用の平準化、構造物等の長寿命化を図りながら、計画的な維持管理が必要
(4) 快適性の向上	お客さまに快適・便利にご利用いただけるよう、地下鉄駅のリニューアルや清潔感の向上等が必要
(5) 移動しやすい環境の整備	高齢者や障害者など、誰もが快適・便利にご利用いただけるよう、移動しやすい環境の整備が必要
(6) 誰もが利用しやすい環境の整備	国内外からの来訪者の増加に向け、わかりやすい情報の提供や、使いやすい乗車券の設定など、より便利にご利用いただける環境の整備が必要

主 要 課 題	内 容
(7) まちづくりと連携した交通施設の整備	名古屋駅の駅空間の再整備に合わせて、名古屋の玄関口にふさわしい地下鉄駅の整備や、東山線の混雑緩和に向けた取り組みなど、まちづくりと連携した交通施設の整備が必要
(8) 効果的な利用促進策の展開	定期外利用者をはじめ、乗車人員の増加を目指して、効果的な利用促進策の展開が必要
(9) 人材の確保・育成	交通サービスを持続的に提供するためには、人材の安定的な確保・育成が必要
(10) 経営基盤の強化	将来にわたって安定的に交通サービスを提供するためには、更なる収入増加方策の取り組み等による収支の改善や、市バスネットワーク維持のための公的負担継続が必要

## 6 重点施策

関連する 主要課題	重点施策	内 容
(1) 安全の確保 (2) 自然災害への備え (3) 計画的な維持管理	→ (施策1) 安全・安心の推進	お客さまに、安全・安心にご利用いただける市バス・地下鉄にするため、安全対策の強化、自然災害への備え及び計画的な維持管理を進めます。
(4) 快適性の向上 (5) 移動しやすい環境の整備 (6) 誰もが利用しやすい環境の整備	→ (施策2) 快適・便利の向上	お客さまに、より快適で、より便利にご利用いただける市バス・地下鉄にするため、地下鉄駅等のリニューアル、人にやさしい環境づくり及びわかりやすく利用しやすい環境づくりを進めます。
(7) まちづくりと連携した交通施設の整備 (8) 効果的な利用促進策の展開	→ (施策3) まちの活性化への貢献	拠点エリアの駅機能強化や、効果的な利用促進策の展開を通して、名古屋のまちの活性化に貢献します。
(9) 人材の確保・育成 (10) 経営基盤の強化	→ (施策4) 安定した運営基盤の確立	将来にわたって安定的に交通サービスを提供し続けていくため、人材の確保・育成や、経営基盤の強化を進めます。

## 7 施策を推進する事業

### (施策1) 安全・安心の推進

区 分	事 業
安全対策の強化	<b>【教育・訓練等】</b> 災害・危機対応力の向上 災害の発生に備えた情報発信の強化 ○輸送の安全に関する研修等の実施 運輸安全マネジメントの推進 市バス・地下鉄マナー啓発
	<b>【安全設備の導入（市バス）】</b> ○ドライブレコーダーの機能強化 ○バス車両への安全確認放送装置の設置拡大
	<b>【安全設備の導入（地下鉄）】</b> ○可動式ホーム柵の整備 ○駅構内カメラの機能強化
自然災害への備え	地下鉄構造物の耐震補強 駅出入口止水板の改修
計画的な維持管理	◎第2栄変電所の移設 地下鉄構造物の長寿命化 地下鉄電気設備の更新 エレベーター・エスカレーターの更新 地下鉄車両の主要電気機器更新

(注) 事業の記載方法は、各施策において次のとおりです。

・新規事業は◎、拡充事業は○で表します。

(施策2) 快適・便利の向上

区 分	事 業
地下鉄駅等のリニューアル	<p>【地下鉄駅のリニューアル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎地下鉄駅のリニューアル</li> <li>◎駅構内トイレのリニューアル</li> <li>○地下鉄駅ホームの冷房化の推進</li> <li>わかりやすい案内サインの整備</li> </ul>
	<p>【バス待ち環境の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎バスターミナルの環境改善</li> <li>バス停留所施設の整備・改修</li> </ul>
人にやさしい環境づくり	<p>【バリアフリー化の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ホームと車両の段差・隙間の解消</li> <li>○エレベーターの整備</li> <li>○地下鉄車両の更新</li> <li>使いやすいつり革の設置</li> <li>エスカレーター音声案内装置等の整備</li> </ul>
	<p>【環境対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バス車両の更新</li> <li>次世代自動車導入の検討</li> <li>蛍光灯のLED化</li> </ul>
わかりやすく利用しやすい環境づくり	<p>【情報提供（市バス）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○バス車内への液晶式停留所名表示器の設置拡大</li> <li>○バス停留所へののりば番号等の表示</li> </ul>
	<p>【情報提供（地下鉄）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎地下鉄運行情報提供大型モニターの導入</li> <li>◎旅行者向け券売機の導入</li> <li>◎地下鉄券売機の多言語化</li> <li>◎液晶式車内案内表示装置の多言語化</li> <li>○地下鉄駅の旅客案内表示装置の更新</li> <li>○タブレット端末の全駅配備</li> <li>コンシェルジュの配置</li> </ul>
	<p>【便利な乗車券】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎地下鉄一日乗車券の24時間券化</li> <li>マナカの利便性向上</li> <li>キャッシュレス化の検討</li> </ul>



(施策3) まちの活性化への貢献

区 分	事 業
拠点エリアの駅機能強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎リニア中央新幹線の開業に向けた名古屋駅の整備</li> <li>◎主要駅の混雑緩和対策の検討</li> </ul>
効果的な利用促進策の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○効果的な駅ナカ事業の展開</li> <li>○戦略的な情報発信</li> <li>○「なごや乗換ナビ」における検索機能の改善</li> <li>◎バスの乗り方教室の開催</li> <li>    イベントの実施</li> <li>    企画乗車券の発売</li> <li>    ハッチキッズクラブの運営</li> <li>    効果的な乗客誘致施策の検討</li> <li>    企業・大学・地域・他部局等との連携</li> </ul>

(施策4) 安定した運営基盤の確立

区 分	事 業
人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎安定的な人材確保のための取り組みの実施</li> <li>◎働きやすい環境づくり</li> <li>◎制服の機能性向上</li> <li>    接客サービス向上のための取り組みの実施</li> <li>    各種コンクールの実施</li> </ul>
経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資産の有効活用</li> <li>    広告料収入の確保</li> <li>    市バスの管理委託の拡大</li> <li>    地下鉄のワンマン運転化の拡大</li> <li>    市バス事業の経営基盤強化</li> </ul>

## 8 乗車人員の見通し

名古屋市の人口は、高齢化に伴う死亡数の増加や出生数の減少により、今後、自然減の拡大や生産年齢人口（15～64歳人口）の減少が予測されています。

一方、社会増減は、他地域からの転入超過がしばらくは続くものと想定されています。

このような状況のもとで、今後の常住人口は、短期的には自然減を上回る社会増により増加が続くものの、将来的には自然減が社会増を上回り、2022（平成34）年頃から減少に転じると予測されています。

また、昼間人口は、周辺市町村の人口減少などにより、2020（平成32）年頃から減少に転じると予測されています。

こうした人口変化のほか、今後の景気動向予測、リニア中央新幹線の開業による交流人口の増加なども加味して、今後10年間の乗車人員を推計すると、市バス・地下鉄ともに、当面は増加するものの、2027（平成39）年頃以降、市バスは、減少に転じ、地下鉄は、同水準で推移すると見込まれます。

## 9 計画目標

区 分	目 標
市バス	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2023（平成35）年度に1日あたり36万人の乗車人員</li><li>・ 経常収支の黒字を確保</li><li>・ 債務超過を解消</li></ul>
地下鉄	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2023（平成35）年度に1日あたり137万人の乗車人員</li><li>・ 実質資金不足額を平成30年度比で830億円以上削減</li><li>・ 累積欠損金を平成30年度比で590億円以上削減</li></ul>

# 10 収支計画

## (1) 市バス事業

区 分	2018年度 (平成30)	計 画 期			
		2019年度 (平成31)	2020年度 (平成32)	2021年度 (平成33)	
乗車人員 (千人/日)	354	355	357	359	
収益的収支	経常収入	250	258	261	262
	うち運輸収益	178	179	180	180
	うち敬老パス 負担金	60	60	60	61
	経常支出	239	256	258	259
	経常収支	11	2	3	3
累積欠損金	350	345	342	339	
資本的収支	資本的収入	40	23	23	18
	資本的支出	52	48	47	41
	うち建設改良費	26	19	21	16
	資本的収支差引	△12	△25	△24	△23
債務超過額	16	7	1	-	

2019 (平成31) 年度から2023 (平成35) 年度の5年間に約100億円の投資 (建設改良費) を予定しています。

- (注) 1 収益的収支には消費税及び地方消費税を含まず、資本的収支には消費税及び地方消費税を含みます。
- 2 2019 (平成31) 年10月から税率改正に対応する前提で積算しています。
- 3 計数については精査中であり、異動する場合があります。

(単位 億円)

間		計 画 期 間 後				
2022年度 (平成34)	2023年度 (平成35)	2024年度 (平成36)	2025年度 (平成37)	2026年度 (平成38)	2027年度 (平成39)	2028年度 (平成40)
361	363	363	364	364	364	363
264	266	268	274	282	286	284
181	182	182	183	183	183	183
61	61	61	61	61	61	61
261	262	265	271	277	280	278
3	4	3	3	5	6	6
336	332	329	326	321	315	309
19	24	36	49	47	31	30
42	44	55	69	72	64	70
19	25	37	50	48	31	30
△23	△20	△19	△20	△25	△33	△40
-	-	-	-	-	-	-

## (2) 地下鉄事業

区 分	2018年度 (平成30)	計 画 期			
		2019年度 (平成31)	2020年度 (平成32)	2021年度 (平成33)	
乗車人員 (千人/日)	1,332	1,335	1,344	1,350	
収益的 収支	経常収入	940	937	928	926
	うち運輸収益	767	772	776	780
	うち敬老パス 負担金	76	75	76	76
	経常支出	786	810	815	810
	経常収支	154	127	113	116
	実質経常収支	98	82	80	87
	累積欠損金	2,154	2,027	1,914	1,798
資本的 収支	資本的収入	185	189	198	177
	資本的支出	566	540	546	492
	うち建設改良費	151	150	167	152
	資本的収支差引	△381	△351	△348	△315

実質資金不足額	2,048	1,917	1,755	1,585
---------	-------	-------	-------	-------

2019 (平成31) 年度から2023 (平成35) 年度の5年間に  
約800億円の投資 (建設改良費) を予定しています。

- (注) 1 収益的収支には消費税及び地方消費税を含まず、資本的収支には消費税及び地方消費税を含みます。
- 2 2019 (平成31) 年10月から税率改正に対応する前提で積算しています。
- 3 計数については精査中であり、異動する場合があります。

(単位 億円)

間		計 画 期 間 後				
2022年度 (平成34)	2023年度 (平成35)	2024年度 (平成36)	2025年度 (平成37)	2026年度 (平成38)	2027年度 (平成39)	2028年度 (平成40)
1,359	1,367	1,369	1,371	1,374	1,374	1,374
924	946	943	940	939	933	930
786	790	791	792	794	794	794
76	75	75	75	74	74	74
818	814	810	815	816	819	822
106	132	133	125	123	114	108
84	92	95	92	92	87	84
1,692	1,560	1,427	1,302	1,179	1,065	957
184	175	169	169	169	169	168
476	459	536	453	440	423	404
165	166	160	160	160	160	160
△292	△284	△367	△284	△271	△254	△236
1,408	1,212	1,060	846	621	392	166

## 1 1 進行管理

計画を着実に実現し、目標を達成していくため、事業の取り組み状況などの進捗状況について、外部有識者のご意見をお聴きしながら、進行管理を行ってまいります。

また、進捗状況については、ウェブサイトなどにより、市民・利用者の皆さまにわかりやすく情報提供してまいります。

なお、社会経済情勢等が計画策定時と大幅に変化した場合には、計画の見直しについて検討します。



## 1 2 名古屋市交通事業経営有識者懇談会の開催

本計画の策定にあたっては、交通事業や企業の経営に関して専門的知識を有する学識経験者等を構成員とする有識者懇談会を開催し、意見をいただきました。

### (1) 構成員

氏名	役職等（平成30年11月現在）
青木 真美	同志社大学商学部商学科教授
加藤 博和	名古屋大学大学院環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター教授
加藤 義人	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部執行役員主席研究員
神谷 紀子	フィールド・ネクサスGROUP CEO税理士 名古屋大学法科大学院非常勤講師
二村 真理子	東京女子大学現代教養学部国際社会学科 経済学専攻教授

### (2) 開催状況

回	開催日	内容
第1回	平成30年 6月12日	次期経営計画策定の基本的な考え方について
第2回	平成30年 8月21日	次期経営計画の中間案について
第3回	平成30年 11月8日	次期経営計画の原案について

### 1 3 今後の予定

時 期	内 容
平成31年1月11日～2月10日	パブリックコメントの実施
平成31年3月	計画策定、公表